

ア ジ ア 日 誌

3月16日 - 5月26日

3月16日

- ◆韓国大統領選挙で李承晩大統領の4選決定。
- ◆ハーター米國務長官、韓国大統領選挙をめぐる暴力事件に遺憾の意を表明。
- ◆台湾の中國民主社会党、21日の総統選挙に候補者を立てないと声明。
- ◆中国中南米友好協会、北京で創立。
- ◆アブドル・ラーマン・マラヤ商工相、シンガポールとの共同市場創設交渉開始を言明。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、国会改組につき3政党首脳とバリ島で会談。

- ◆インドネシア政府、日本向け船舶4万7000トンを発注。建造費は対インドネシア賠償支払金を担保として支払われる。
- ◆マラビヤ・インド燃料相は16日、インド政府は石油製品輸入についてソ連貿易当局とインド民間会社の締結した協定を破棄し、ソ連石油製品輸入は両国政府間で行なうと発表。
- ◆ソ連、セイロンで冶金工場建設に着工。
- ◆ソ連、セイロンでタイヤ工場設計に着手。
- ◆アラブ連合、「シリア経済機構」の設立を発表。
- ◆日本プラント協会、4月中旬にアフリカへ市場調査団派遣を決定。

3月17日

- ◆エカフェ総会で、タイ代表、メコン川開発計画への国際援助を発表。
- ◆李承晩大統領、馬山暴動鎮圧に強行措置を指令。
- ◆中国の贛歴・貴陽鉄道60年中に開通の見込み。
- ◆ガルシア・フィリピン大統領、アイゼンハワー米大統領に対し、対フィリピン砂糖輸入割当ての増大を要請。

- ◆北ヴェトナム労働党中央委員会、各級党委員会に地方工業を發展させる方針を指示。
- ◆ビルマ反ファシスト人民自由連盟「清廉派」会議で、同連盟の名称を連邦連盟(Union League)と改めると発表。同時に中央委員提出の新関係名簿を承認した。
- ◆イスラエルのベングリオン首相、マクミラン英首相と会談。
- ◆レバノン政府、総選挙を5月に行なうと発表。
- ◆日本道路公団、世銀からの4000万ドルの借款に調印。

3月18日

- ◆エカフェ総会、地域的経済協力に関する新決議を採択し、次期総会開催地をニューデリーに決定。
- ◆韓国民主党、国会で大統領選挙無効を宣言。
- ◆崔韓国内務部長官、馬山暴動などの責任をとって辞表を提出。
- ◆台湾政府、米5000トン以上の買いためには最高死刑を課すると警告。
- ◆上海人民法院、スパイ活動を行なったアメリカ人司教に有罪を判決。
- ◆北ヴェトナムの1959年度手工業者社会主義改造方針により、全手工業者の70%が協同組合に加入。
- ◆インドネシアからの中国帰還者600人黄埔港着。
- ◆インドと欧州4社、インドに年間12万トンの窒素製品を引き渡す協定に調印。
- ◆アラブ連合、シリア地区行政会議を改造。
- ◆ダウド・アフガニスタン首相、イランを公式訪問。
- ◆日韓抑留者の相互送還実施の日どり決まる。

3月19日

- ◆スカルノ・インドネシア大統領、

近く「相互扶助議会」の設立と「国民戦線」の結成を発表。

- ◆インドネシア軍当局、ジャワ中部地区で政党活動を禁止。
- ◆中国外交部、米艦の領海侵入に警告。
- ◆フィリピン下院移民帰化委員会、滞在期限超過中国人を収容する法案を承認。
- ◆北ヴェトナムのハノイで「対米闘争デー」大会開催。
- ◆ラオス愛国党中央委員会、ラオ・ハクサト紙上に同党の選挙綱領を発表。

◆インド国家開発委員会、第3次5カ年計画草案を討議。

- ◆イラク・インドネシア両国、外交使節の大使外格を決定。
- ◆アラブ連合、カッタラ低地を発電・灌漑用人工湖とする計画の調査を開始。

3月20日

- ◆セイロン総選挙で右派の国民統一党勝つ。
- ◆セイロン総督、ダハナヤケ首相の辞表を受理。
- ◆平壤で在韓米軍のマタドール発射に抗議集會。
- ◆インドネシアから中国本土引きあげ華商第2次船ジャカルタ出航。
- ◆ウ・ヌー・ビルマ前首相、I P I (国際新聞編集者協会)総会出席のため米日。
- ◆インド国家開発会議でインド第3次5カ年計画決まる。
- ◆インド・パキスタン両国、貿易協定に調印。
- ◆パトナで開かれていたインドのスワタントラ党大会終わる。
- ◆トルコ・イスラエル両国、60年度貿易協定締結。

3月21日

- ◆南アフリカ連邦に現地人通行証携

行強制反対デモで流血事件おこる。

◆第16回エカフェ年次総会、域内協力促進などを決議して閉会。

◆中印国境問題討議のための周・ネール会談、4月19日から25日までと決定。

◆中国・ネパール両国、国境協定、中国の対ネパール経済援助協定、中国ネパール共同声明に調印。

◆国府の総選挙で、蒋介石現大統領の3選決定。

◆香港政庁、中国から香港への水道管敷設工事開始を発表。

◆アメリカ当局、タイの3軍用飛行場をタイに引き渡し。

◆インドネシア陸軍当局、19日の騎兵隊兵舎襲撃事件で死傷21人と発表し、関係者46名を逮捕。

◆インド・アラブ連合両国、貿易協定に調印。

◆セイロンのセナナヤケ氏、首相に就任。

3月22日

◆DLF(米開発借款基金)、台湾への借款を承認。

◆第22回米中会談開く。

◆朝鮮軍事休戦委員会の朝中側、アメリカ側の協定違反に抗議。

◆フィリピン上院のブルー・リボン委員会、マリキナ・ダムに関する公聴会を開催。

◆日比通商航海条約会談再開。

◆北ヴェトナム人民軍、南ヴェトナムへのアメリカ軍用物資搬入に抗議。

◆インド週刊紙、2月に開かれた東南アジア諸国駐在ドイツ外交官会議で、西ドイツの対東南アジア投資50%増額計画が秘密裏に討議された、と報道。

◆イラクにソ連援助による原子炉建設を決定。

◆ベングリオン・イスラエル首相、イギリス当局に対し兵器供給を要請。

◆イスラエル機不時着をめぐってイスラエル・サウジアラビアの関係緊張。

◆日本政府、韓国米3万トンの輸入を了承。

◆日本政府、韓国に対し京城に在外公館設置を申し入れ。

3月23日

◆A・A連帯評議会、バンドン会議5周年アピールを行ない、南ア連邦人種差別問題、ラオスの反動派の活動および西側諸国のイスラエルへの武器供与などに対する抗議を採択。

◆台湾で、アメリカ・国府合同大演習を実施。

◆中国・東ドイツ両国、パートナー議定書に調印。

◆カンボジア・アラブ連合両国、貿易支払協定に調印。

◆セイロンにセナナヤケを首班とする新内閣成立。

◆ビルマ民需品供給委員会、民需品の価格統制令を撤回。

◆イラク各地で民族主義者と共産主義者の衝突おこる。

◆イエーメン・エチオピア両国、外交関係を樹立。

◆中国訪問中の前進座、上海で初公演。

3月24日

◆エカフェ中小企業小委員会第6回会議、食糧の計画・貯蔵問題など討議のためシンガポールで開催。

◆ソ連貿易代表団、北京到着。

◆アメリカ当局、フィリピンに沿岸警備用砲艦2隻を譲渡。

◆インドネシア政府、共産党機関紙ハリアン・ラキャットを発禁。

◆西スマトラの反徒の拠点陥落。

◆インド国立銀行のスト中止。

◆パキスタン政府、ラウルピンジに国立原子力研究所建設を発表。

◆ソ連技術者、セイロンのマルラトオヤ川の水利施設技術設計を完了。

◆米日中のウ・ヌー・ビルマ次期首相帰国。

◆ワルシャワの中国大使館当局、スパイ容疑の米人司教の有罪宣告に対するアメリカの抗議を拒絶。

◆日本の北スマトラ油田開発交渉団出発。

◆ビルマ経済調査団出発。

◆I P I総会で、コロンボにアジア新聞センター設立を決定。

3月25日

◆国連A・Aグループ、南ア連邦の暴動問題討議のための緊急安保理事會招集を要求。

◆北京から帰国したコイララ・ネパール首相は、中国・ネパール国境の不明確な箇所を両国の国境画定委員により2カ月以内に画定する、と述べた。

◆中国・ユーゴ両国、60年度貿易協定に調印。

◆セラノ・フィリピン外相は、フィリピン政府は東南アジア経済・文化協力機構計画を促進すると述べた。

◆日比通商航海条約会談、交渉会場を東京に移す。

◆タイ紙、タイ政府は日本の経済進出を抑える措置を検討している、と報道。

◆インド上院議員選挙結果発表。

◆インド・マドラス州に発電所完成。

◆米農務省、インドに米余剰農産物追加買い付け権限を与えたと発表。

◆米経済使節団、ヨルダンへの援助計画に調印。

◆日本の漁業・セメントの2代表団、パキスタン訪問。

◆第14次北鮮帰還船、新潟出港。

3月26日

◆国府・南ヴェトナム両国、両国間の経済協力強化につき合意。

◆タイ政府、日産トラック、ダットサンなどの組立工場新設を承認。

◆アラブ連合、地方政府機構法を制定。

◆アメリカ・アラブ連合両国、借款協定に調印。

◆岸首相、アジア生産性機構に出資を了承。

3月27日

◆スカルノ・インドネシア大統領、新議会の設立を発表。

◆スバンドリオ・インドネシア外相、陳毅中国外交部長に書簡を送り、中国の反インドネシア運動に警告。

◆カセム・イラク首相、ジャマリ元首相らの減刑を発表。

◆イラク南部で、アラブ民族主義者と共産主義者武力衝突。

3月28日

- ◆日韓相互送還開始。
- ◆日台貿易協定更新のための交渉、台北で開始。
- ◆インド議会、南ア連邦の流血事件を非難する決議を採択。
- ◆自由カシミール政府、土地改革を発表。
- ◆テヘランでCENTO軍事委員会開く。
- ◆アラブ連盟当局、イラクは31日開く第33回アラブ連盟理事会に出席しないと発表。
- ◆アラブ連合貿易代表団ビルマ訪問。
- ◆アメリカ・アジア防空戦闘機会議クラーク基地で開く。
- ◆日立製作所、タイの電気機関車の受注に成功、契約調印した。

3月29日

- ◆中国人民政治協商会議第3期全国委第3回会議開く。
- ◆中国・ソ連両国、60年度バクター協定書に調印。
- ◆ソ連のアントロポフ地質・地下資源保護相インド訪問。
- ◆日本のビルマ賠償によるバルーチン水力発電所建設工事完成。
- ◆イラク紙の報道によれば、イラクで相当数の労働組合が活動停止を命ぜられている。
- ◆レバノン・東ドイツ両国、商品取引で合意。
- ◆ナセル・アラブ連合大統領、インド訪問。
- ◆日本の中国文字改革視察団および全日本農民組合代表団、中国訪問。
- ◆丸善石油、東洋棉花と共同出資でシンガポールに石油会社設立を決定。

3月30日

- ◆南ア連邦の一部に非常事態宣言。
- ◆南ア連邦の黒人大量殺害事件で、国連安保理事会開く。
- ◆中国第2期全国人民代表大会第2回会議開き、60年度国民経済計画草案を発表。
- ◆北鮮・ルーマニア両国、60年度物資交換支払協定書に調印。

- ◆インド訪問中のナセル大統領、ネール首相と会談。

3月31日

- ◆A・A諸国とエクアドル、国連安保理事会に対し、「南ア連邦の人種差別政策廃止を要求する」決議案を提出。
- ◆第6回国際砂糖理事会、第2・四半期の国際砂糖輸出割当ては現行通りと発表。
- ◆李承晩韓国大統領、アメリカに武器供給を要請。
- ◆日本・マラヤ両国の通商交渉妥結、正式調印は4月中旬になる見込み。
- ◆イラク第3回全国平和大会、バグダッドで開催。
- ◆アラブ連盟理事会第33回半年次会議開く。
- ◆シチズン時計会社、インド政府と技術援助を契約。

4月1日

- ◆中国の北京・承德間の京承鉄道開通。
- ◆フィリピン、日本にバナナ買い付けを要請。
- ◆フィリピンの共産系武装団体「フク団」活動開始。
- ◆ラーマン・マラヤ首長死去。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、世界旅行に出発、ニューデリーでネール首相と会談した。

4月2日

- ◆中国はレバノン駐在商業使節閉事務局を閉鎖。
- ◆新華社電、チベットの大部分で土地配分が終わったと報道。
- ◆シンガポール政府、同地に日本と合弁の鉄鋼延工場建設を認可。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、イラクを訪問。
- ◆近くジャカルタに国有貿易銀行設立を決定。
- ◆スハルト・インドネシア地方工業相、同国における工業への外資進出を阻止すると声明。
- ◆日本のコンサルタント、インド政府にオリッサ州の鉄鉱石資源開発についての報告を提出。

- ◆レバノン経済調査団、ポーランドへ出発。

- ◆アメリカ・アラブ連合両国、アメリカがシリア地区の技術・経済開発を援助する協定に調印。

4月3日

- ◆ノロドム・スラムリット・カンボジア国王死去。
- ◆カンボジアに、同国最大のシアヌークレ海港開港。
- ◆インドネシア紙、インドネシアの反乱分子は統合に向かっていると報道。
- ◆インド国家開発協議会、第3次5カ年計画を原則的に承認。
- ◆テヘランでCENTO経済委員会開く。

4月4日

- ◆国連A・A諸国、フランス第2回核実験問題討議のための特別総会召集を要請。
- ◆北鮮最高人民会議、政府機構の一部を改革。
- ◆アイゼンハワー・アメリカ大統領、フィリピンの対米砂糖輸出割当て増加要求を拒否。
- ◆バンコックの紡織工場主、共同でサリット・タイ首相に外国紡織品の輸入禁止を要求。
- ◆マラヤ連邦セラゴール州のヒサムジン藩王、臨時元首に就任。
- ◆ビルマ地域代表会議(下院)、満場一致でウ・ヌー連邦連盟総裁を新首相に選出。
- ◆フェイン・ヨルダン国王、イラン訪問。

4月5日

- ◆フィリピン紙の報道によれば、フィリピン政府は、さきのアジア経済ブロック結成案を放棄した。これは日本によって、同地域が経済的に支配されることを恐れたためといわれる。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、カセム・イラク首相と共同声明を発表し、両国の文化協定・貿易協定締結を明らかにした。
- ◆日本・ビルマ両国政府、両国の貿易取り決め1年延長を決定。

◆イラク・キューバ両国，外交関係を樹立。

◆日韓貿易交渉開始。

4月6日

◆譚震林中国副首相，第2期全国人民代表大会で，農業発展要綱につき報告。

◆マニラからの連絡によると，マラヤ・フィリピン両国は，「東南アジア友好経済条約」を作ることを画策している。

◆カンボジア議会，憲法を修正して3人から成る摂政会議に国の統治を許すことを決定し，摂政会議長にシソワト・モニレト殿下を選出。

◆インド政府，中国機の領空侵犯に抗議。

◆セイロンのゴネチレケ総督，議会でセイロンを英連邦の共和国とする措置をとることを政府に提案。

◆ヨルダン紙，ヨルダン民族主義者多数が逮捕されたと報道。

◆アラブ連盟政治委員会，アラブ連合に国連安保理事会非常任理事国に立候補を勧告。

◆日台貿易交渉，1つの特別委員会を設置。

4月7日

◆北鮮の林国家計画委員長，閣議で60年度第1・四半期工業生産額超過達成を報告。

◆北ヴェトナム副首相，国際監視委員会に南ヴェトナムのジュネーブ協定に違反する死刑法廃止を要求。

◆インドネシア農務省，同国の米作改善援助のため，日本の農業専門家派遣を要請。

◆日本・インドネシア両国，北スマトラ油田開発に関する協定に調印。

◆ビルマ政府，家畜の畜殺を禁止。

◆イラク・ベネズエラ両国，外交関係を樹立。

◆レバノン・ポーランド両国，貿易協定書調印。

4月8日

◆マラヤ・フィリピン両国，検討中の「東南アジア友好経済条約」案の基本構想につき意見一致を発表。

◆スウェーデンの輸送労組，イスラエ

ル向けのスウェーデン船差押えに対する報復として，アラブ連合所属船の荷扱いボイコットを決定。

◆ミコヤン・ソ連第1副首相，ソ連工業博覧会出席のためバグダッド着。

◆アラブ・メキシコ両国，文化協定に調印。

◆日本のビルマ経済使節団帰る。

4月9日

◆ニューデリーでA・A諸国民会議開催，チベット問題およびアジア各地の反植民地主義問題を討議する。

◆第2期全国人民代表大会民族委員会拡大会議閉く。

◆ガルシア・フィリピン大統領，フィリピンへ原子力兵器導入の希望を表明。

◆北ヴェトナム・ソ連両国，60年度貿易協定書に調印。

◆インドネシア当局，空軍省を設置。

◆メノン・インド国防相，中印国境の防衛体制を強化したと声明。

◆ビルマのウ・ヌー首相，ビルマは日本に対しフィリピンと同程度の賠償を請求すると述べた。

◆イラクの第1軍事法廷，モスル反乱鎮圧に参加した民衆の裁判を開始。

4月10日

◆中国第2期全国人民代表大会第2回会議終わる。

◆南ヴェトナム議会，ジュネーブ協定に違反する軍備拡張法案を可決。

◆イラクのアルマムーンで共産主義者と民族主義者が衝突。

◆ナセル・アラブ連合大統領，パキスタンを訪問し，非同盟中立政策を強調する共同コミュニケを発表。

4月11日

◆第2回A・A諸国民会議ギニアのコナクリで閉く。

◆劉少奇中国主席，1956～67年全国農業発展要綱を公布。

◆中国人民政治協商会議第3期全国委員会第2回会議終わる。

◆在外中国人1550人中国に帰着。

◆韓国の馬山で暴動再発。

◆北ヴェトナム政府，「1960年度経

済改造・発展，文化発展計画」を発表。

◆スカルノ・インドネシア大統領，ブルガリア訪問を終えルーマニアを訪問。

◆インドネシア公共事業省，ソ連との借款協定，日本との賠償協定に基づく道路建設用施設の到着を発表。

◆インド外務省，国境問題についての4月3日付け中国回答を公表。

◆パキスタン，アメリカと余剰農産物をルピーで買い付ける協定に調印。

◆カシム・カーン・パキスタン工業相，ロンドンにおいて外資導入促進のためある種の免税措置を実施すると誓明。

◆ウ・ウィン・モン・ビルマ大統領，首相の指名に基づき，閣僚の一部移動を行なう。

◆ナセル・アラブ連合大統領とアユブ・カーン・パキスタン大統領，カラチで会談。

◆又一商店（大阪）タイ政府と米4万トン輸入を契約。

4月12日

◆国連経済社会理事会，先進工業国の低開発国援助促進のために常設委員会を設置する決議を採択。

◆北京で中国・アフリカ人民友好協会発足。

◆日韓貿易交渉において，韓国側は米などの買い付け増加を要求。

◆カンボジア宣伝省，シアヌーク首相が11日摂政会議に辞表を提出したと発表。

◆インド当局，周恩来中国首相の訪印日程を発表。

◆日本政府，インドのバイラディアラ地区鉱山開発についての日本，インド両国間の覚え書きを正式承認。

◆マヘンドラ・ネパール国王夫妻タイ国を訪問。

◆アルジェリア臨時政府代表団，サウジアラビア訪問の途につく。

4月13日

◆周恩来中国首相，ビルマ，インドなど訪問の途につく。

◆ナスチオン・インドネシア参謀総長，軍法会議増設を決定。

◆インド政府、外務省内に北方局を新設、局長にJ・S・メータ氏を任命。
 ◆13日からネパール・ルピー全国に流通。
 ◆カラミ・レバノン首相、フランス人所有のバイルート港公社の買収を発表。
 ◆日本北スマトラ油田開発協力使節団帰国。

4月14日

◆アジア・アフリカ諸国民会議事務局、南ア問題で声明を発表。
 ◆台北駐在タイ大使館、ワタナクン・タイ空軍総司令官らの墜落死を発表。
 ◆マラヤ連邦元首にヒサムジン・アラムシャー藩王就任。
 ◆BBC放送によれば、マラヤとシンガポールのゴム取り引き業者を代表する新組織「パン・マラヤン・ゴム取引協会」が最近マラヤに設置された。
 ◆インドネシア政府、オランダ船の領海立ち入り禁止を決定。
 ◆スカルノ・インドネシア大統領、ハンガリアを訪問。

◆ネール・インド首相、中印会談にそなえて国境視察に向かう。
 ◆コイララ・ネパール首相は上院で、エベレスト山頂はネパール領であると声明した。
 ◆フセイン・ヨルダン国王、トルコ訪問。
 ◆日韓会談の韓国側代表帰任。
 ◆日本プラント業界へのアラブ連合、パキスタンなどよりの大規模プラント建設計画のコンサルティング依頼相づく。

4月15日

◆A・A諸国民会議、核兵器・軍縮問題、アルジェリア・南ア問題、経済的自立の問題などについて決議を行なって閉会。
 ◆周恩来中国首相、ビルマに到着。
 ◆北京放送によれば、中国國務院は3.28の全体会議で国家機関、大学高等在外公館など、領事の一部人事異動を決定した。なおこの決定により馬寅初北京大校長は解任された。
 ◆中国・東ドイツ両国、科学技術協

力協定締結。

◆日韓全面会談再開。
 ◆北ヴェトナム国会、徴兵法、60年度国家予算など承認して閉会。
 ◆パキスタン政府、パキスタンの石油開発に関心をもつ諸国に石油調査の便宜を供与すると発表。
 ◆ネパールの学生および労働組合、20日に中国のエベレスト領有宣言に抗議する統一デモ実施を決定。
 ◆イラク訪問中のミコヤン・ソ連第1副首相、カセム首相と両国の経済関係の発展について会談。
 ◆アラブ連合とパキスタン、カラチで期限1年の貿易協定に調印。

4月16日

◆ネール・インド首相、中印会談で妥協せずと演説。
 ◆中国・ビルマ首脳会談開始。
 ◆ナセル・アラブ連合大統領、インド、パキスタン訪問を終えカイロに帰着。
 ◆バグダッドの予備役士官学校で「パレスチナ解放軍」結成式行なわれる。

4月17日

◆周恩来中国首相、ウ・ヌー・ビルマ首相と会談。国際情勢、国境画定方針を検討。
 ◆カンボジア放送、摂政委員会のボ・プロウン氏が新内閣の組閣に当たると報道。
 ◆スカルノ・インドネシア大統領、オーストリアを訪問。
 ◆ニューデリーでインド人約5000人による周・ネール会談反対デモ起こる。
 ◆アルジェリア政府代表団、イラク政府の招きでバグダッドに到着。

4月18日

◆中国全國民兵代表会議、北京で開く。
 ◆カンボジア新内閣成立。首相（兼内務、宗教相）ボ・プロウン。
 ◆日比友好通商航海条約の第1回東京交渉開始。
 ◆インド国営貿易公社、1958～59年事業報告を発表。

◆シュリマリ・インド教育相、地方語教育の推進を強調。
 ◆ユーゴ・パキスタン両国、相互に最恵国待遇供与を認める通商協定に調印。
 ◆セイロン・メキシコ両国、外交関係を樹立。
 ◆ウ・バ・スエ・ビルマ反ファシスト人民自由同盟安定派総裁、周恩来中国首相と会見。
 ◆マヘンドラ・ネパール国王夫妻米日。
 ◆フォード財団、ネパール経済開発に30万ドルの借款供与を発表。
 ◆フセイン・ヨルダン国王、イタリヤ訪問。
 ◆アフガニスタン政府、南ア製品輸入禁止を発表。
 ◆アラビア石油、2号井にも成功。
 ◆産産省、東南アジア向けに、第3次日本産業巡航見本市計画決定。

4月19日

◆周恩来中国首相。インドに到着。
 ◆中国・ビルマ両国、共同コミュニケを発表。
 ◆韓国でデモ各地に続発し、京城ほか4市に非常戒厳令布告。
 ◆米國務省、韓国デモ事件に対し、韓国政府への警告声明を発表。
 ◆フィリピン上院のクナダ・マリキナ・ダム調査副委員長、マリキナ・ダムの入札延期を声明。
 ◆マラヤのヒサムジン・アラム・シャー新元首、議会に対し7月末で非常事態を解除すると声明。
 ◆ソ連、国連総会に低開発国援助に関する報告を提出。それによれば1953年以後トルコ、イランなど14カ国に対し805万ドルに上る経済・技術援助を与えている。
 ◆アラブ連合・ギリシア両国、通商協定書に調印。
 ◆アブード・スーダン首相、7月にアラブ連合を訪問すると発表。

4月20日

◆ネール・周恩来両首相、中印国境問題に関する第1回会談を行なう。
 ◆インドネシア政府、次回総選挙を1962年に実施すると発表。

◆ハンガリー通信発表のスカルノ・ドビ共同コミュニケによれば、ハンガリー・インドネシア両国は文化協定締結。

◆DLF (米開発借款基金)、インドに対し2つの計画につき合計1840万ドルの借款供与を発表。

◆アユブ・カーン・パキスタン大統領、内閣改造を発表。

◆カトマンズで数千のネパール青年の反中国デモ起こる。

◆イラク・ガーナ両国、両国駐在の公使館をそれぞれ大使館に昇格させることを決定。

◆ソ連・イラク両国、1960年度文化・科学交流計画に調印。

◆アラブ連合紙、ナセル大統領暗殺未遂事件を報道。

◆来日中のアリ・サブリ・アラブ連合国務相、岸首相を訪問。

4月21日

◆韓国内閣総辞職。

◆ハマーショルド国連事務総長、国連朝鮮統一復興委員会は韓国内政に干渉せずと言明。

◆フォード財団、フィリピンの国際稲作研究所設置のための資金援助を発表。

◆ラオスのビエンチャン郊外で、ユネスコ顧問ポール・シャペール氏、アメリカ人の国連ラオス経済使節団長ゼルウェーガー氏とまちがえられてパテト・ラオに殺害さる。

◆タイ政府、クラ地峡にシャム湾とインド洋を結ぶ運河建設を決定。

◆フセイン・ヨルダン国王、モロッコを訪問。

◆ハサン・アバス・ザギ・アラブ連合経済相、エジプト綿の輸出政策修正を発表。

4月22日

◆セイロンのセナナヤケ内閣、下院での信任投票に敗れる。

◆モンゴル貿易使節団、日本訪問。

◆チベット自治区準備委員会第4回全体委員会議ラサで開く。

◆シンガポール港の新入港税課税措置発効。

◆スカルノ・インドネシア大統領、アラブ連合訪問のためカイロ到着。

◆インド・ソ連間に定期貨物航路開く。

◆セイロンのスリランカ自由党、W・ムナシガ書記長を党から追放。

◆ビルマの連邦連盟執行委員会、政府の行政全般を指導勧告する5人の最高諮問委員会設置を決定。

◆ポーランド外務省、ポーランド・イラン両国の60年度貿易協定調印を発表。

◆アラブ連合、スーダンとの共同鉄道建設を発表。

4月23日

◆韓国の李承晩大統領、行政最高責任者の地位を放棄。

◆インド上院、ボンベイ州を5月1日より「グジャラート」と「マハラシュトラ」とに分割する法律を可決。

◆ゴネチレケ・セイロン総督、下院を解散し、総選挙の実施を命令。

◆ウ・ヌー・ビルマ首相、仏教の国教化問題の審議促進を要求。

◆初代駐中国イラク大使、アブドル・ハジファシル氏、北京に到着。

◆来日中のアリ・サブリ・アラブ連合国務相、61年の東京見本市参加希望を表明。

◆ユーゴ・アフガニスタン両国、共同声明を発表。

4月24日

◆台湾の地方選挙で与党中国国民党大勝。

◆ラオス総選挙施行。

◆インドネシア外国為替委員会、国立貿易銀行に対し海外の銀行との外国為替取り引きを行なう全権を与えたと発表。

◆イラン南部ラールで大地震起こり、死者3000人と推定。

4月25日

◆日本外務省、日韓会談再開延期を決定。

◆香港政庁、住友商事から300万ドルにのぼる給用水用鋼管を買い付け。

◆フィリピン中央銀行、ペソ貨の部分的切り下げを発表。

◆サレー・インドネシア建設開発相、長期開発計画に融資するための開発銀行設置を表明。

◆スカルノ・インドネシア大統領、アルジェリア臨時政府クリム副首相兼外相と会見。

◆インドネシア外務省、西ニューギニア海域でのオランダの軍事行動に警告。

◆ジョハリ・マラヤ商相兼農相、マラヤ・シンガポール共同市場問題を検討中と発表。

◆中印国境紛争に関するネール周恩来会談終わる。

◆ユーゴ・パキスタン両国、科学技術協定に調印。

◆DLF (米開発借款基金)、インドのダモダル河谷水力発電所建設援助のために3000万ドルの借款供与を発表。

◆US・ラバー・リクライミンク社、イスラエルに再生ゴム工場建設を発表。

◆日本製品の海外PR専門会社「PRジャパン」創立。

4月26日

◆李承晩韓国大統領、「国民が要求すれば辞任する」と発表。京都市で50万人の大デモ起こる。

◆周恩来中国首相、インド訪問を終えネパールに到着。

◆カンボジア国民議会、イム・ヘイン (Im Heing) 氏を第2副議長に選出。

◆スカルノ・インドネシア大統領、ギニア訪問。

◆インド外務省、新インド駐日大使にラルジ・メロトラ氏を任命。

◆マヘンドラ・ネパール国王夫妻離日、アメリカに向かう。

4月27日

◆李承晩韓国大統領、正式に辞表提出。

◆北鮮、トーゴ共和国を承認。

◆中国全国民兵代表会議終わる。

◆ラーマン・マラヤ首相、SEAFET (東南アジア友好経済協力協定) へのビルマ、インドネシアその他の国の参加を希望すると語る。

◆インドネシア・ギニア両国、相互に大使級外交使節の交換を決定。

◆オランダ政府、ニューギニア防衛のため3軍の増派を発表。

◆インドネシア軍政部、左翼系紙「レ

プブリク」に発行停止を命令。

◆インド紙、中国はラダク地区にアクサイチン道路に平行な第2道路建設中と報道。

◆マヘンドラ・ネパール国王アメリカ訪問。

◆アラブ連合シリア地区労働総会、カナダ船ボイコットを指令。

◆米日中のアリ・サブリ・アラブ連合国務相帰国。

4月28日

◆韓国に暫定内閣成立。

◆韓国副大統領李起鵬氏一家心中。

◆中国・ネパール両国、平和友好条約調印。

◆ネパール・中国首脳会談ポカラで開始。

◆ロムアルデス・フィリピン中央銀行総裁、IMFにペソ貨部分的切り下げの承認を要請。

◆バンコックからの報道によれば、タイ内閣はこのほど米大資本の製材工場設立申請を却下。

◆スカルノ・インドネシア大統領、ギニア訪問を終えモロッコに向かう。

◆グリーン・カナダ外相、パキスタンへの経済援助を発表。

◆ビルマ議会、中国・ビルマ友好相互不可侵条約および両国国境協定を批准。

◆トルコのイスタンブールで学生の反政府デモ起こる。

◆CENTO（中央条約機構）の第8回理事会、イランのテヘランで開く。

◆SEATO（東南アジア条約機構）バンコックとマニラで同時に海空軍事演習を開始。

4月29日

◆許政内閣、道知事8人を全員解任。

◆韓国復興省、水産資材の対日買い付けを承認。

◆駐日韓国代表部柳大使辞任。

◆周恩来中国首相、ビルマ、インド、ネパール訪問を終え昆明に帰着。

◆セラノ・フィリピン外相、日本人の長期滞在許可問題を検討中と表明。

◆ハッタ・元インドネシア副大統領、アメリカ訪問に出発。

◆インドネシア軍事法廷、アメリカ人飛行士に死刑を宣告。

◆ネール・インド首相、下院でスワクタンラ党などの非同盟政策再検討要求に対し、同政策続行を確認。

◆インドのナグプールで、州分割問題で暴動起こる。

4月30日

◆A・A経済会議、A・A経済協力機構の規約を承認。

◆中国の陝西省西安市にこのほど東ドイツ援助の計器工場完成。

◆北ヴェトナム政府、農林省を分割し2省、3総局を新設することを決定。

◆インドネシア共産党機関紙ハリマン・ラキャット復刊。

◆コイララ・ネパール首相、国境問題に関する中国・ネパール高級合同委員会が近く成立すると表明。

◆CENTO（中央条約機構）理事会終わる。

◆レバノンのベイルートで学生を中心とする反米デモ起こる。

◆ヨルダン労組同盟、アメリカ船ボイコットを決定。

◆カイロの国際アラブ労連本部、アラブ諸国の全港湾でアメリカ船ボイコットを発表。

5月1日

◆中国旧モンゴル自治区の包頭鉄鋼公司1号大型平炉出鋼開始。

◆インドのボンベイ州分割をめぐってナグプールの住民2万がデモ。

◆ネール・インド首相、英連邦首相会議出席のためロンドン到着。

◆AFPFL（ビルマ反ファシスト人民自由連盟）安定派大会終わる。

◆国際アラブ労連、エジプト空港でのアメリカ機ボイコットをも準備。

◆メンデレス・トルコ首相、反政府デモ弾圧を声明。

5月2日

◆韓国国会、新内閣を承認。

◆韓国新政府、施政方針を決定。

◆許政韓国大統領代理、暫定内閣の組閣を終わる。

◆韓国国会議長に郭尚勳氏当選。

◆日本外務省、韓国に日本代表部設

置などを申し入れ。

◆ガルシア・フィリピン大統領、国府訪問のためマニラ出発。

◆インドネシア基本工鉱業省、このほど政府に対し日本賠償金の配分割当て増加を要請。

◆スカルノ・インドネシア大統領、チュニジア訪問を終え、モロッコに向かう。

◆インドネシア中央銀行、高額銀行券の再発行を決定。

◆インドネシア基本工鉱業省、インドネシアにある英米3石油会社にオランダ人従事員の解雇を要求。

◆スカルノ・インドネシア大統領、モロッコ訪問。

◆ラオス国民議会総選挙で与党が圧勝。

◆インドのボンベイ州で言語問題から暴動起こる。

◆アラブ全港でアメリカ船ボイコット行なわる。

◆アラブ連合政府のシリア出身2閣僚辞任。

5月3日

◆第2回アジア・アフリカ経済会議終わる。

◆韓国国会、李大統領の辞任を承認。

◆崔韓国外務次官、対日政策の再検討を表明。

◆インドネシア外務省、オランダの西イリアン兵力増強に警告。

◆インドネシア賠償委員会によれば、インドネシアはこのほど日伊賠償協定に基づき、日本と約3210万ドル相当の賠償契約に調印。

◆モスクワ放送によれば、スカルノ・インドネシア大統領、アジズ・シャリフ（イラクの社会活動家）など5氏レーニン平和賞受賞。

◆カルカッタ下院議員補欠選挙で共産党勝つ。

◆イラク内閣改造。

◆イスラエル外務省の発表によれば、ソ連政府はベンゲリオン・イスラエル首相の会談申し入れを拒否した。

◆英連邦首相会議、ロンドンで開く。

5月4日

- ◆韓印国務会議、日本人記者の随時入国を許可。
- ◆インドネシア外務省、日本人の入国制限緩和を検討中と発表。
- ◆アメリカ・インド両国、余剰農産物売却協定に調印。
- ◆イラク政府、アルジェリア臨時政府に100万シナールを援助。
- ◆アメリカ、ヨルダンに330万ドルの援助供与。
- ◆アメリカ、アラブ連合に350万エジプト・ポンドの借款供与。
- ◆トルコのイズミルで学生中心の反政府デモ起こる。

5月5日

- ◆フルシチョフ・ソ連首相、米U2機の撃墜を発表。
- ◆周恩来中国首相、カンボジア訪問のためプノンペンに到着。
- ◆国府内閣、蔣総理の3期就任にそなえて総辞職。
- ◆マン・米国防務次官補、対中共禁輸は不変と強調。
- ◆許政韓国大統領代理、日韓関係正常化のためには北送中止が先決と表明。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、モロッコ訪問を終えポルトガルに向かう。
- ◆カンボジア政府、越境南ヴェトナム軍との交戦を発表。
- ◆インド準備銀行、市中銀行に対し6日以降受け取る預金の50%を準備銀行に預金するよう指令。
- ◆レバノン政府、議会を解散。
- ◆トルコのアンカラで学生4000が反政府デモ。

5月6日

- ◆エカフェ国連経済社会理事会に年次報告提出。
- ◆韓国、日本品輸入の事前承認制廃止。
- ◆南ヴェトナム政府、カンボジア側の越境発表に反論。
- ◆ニエク・チョウロン・カンボジア副首相兼国家計画相、中国からの援助の実施細目を報告。
- ◆インドネシアで反オランダ学生デ

モ起こる。

- ◆米日中のカーン・パキスタン工業相、佐藤蔵相と会談。
- ◆イラク・モンゴル両国、文化協定調印。
- ◆アラブ国際労連、アメリカ船ボイコットを解除。
- ◆アメリカ船員国際組合、アラブ連合船のピケ中止を指令。

5月7日

- ◆中国、チェコとの領事条約に調印。
- ◆韓国、在日朝鮮人の北鮮送還中止を再要請。
- ◆インドネシア国营ペルミナ石油会社、6月から東京に連絡事務所の開設を決定。

- ◆ナイム・アフガニスタン外相、CENTO（中央条約機構）テヘラン会議の共同声明に反論。
- ◆日本外務省、中共との記者交換を認める。

5月8日

- ◆北ヴェトナム人民議会総選挙施行。
- ◆カンボジア・中国共同声明発表。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、ポルトガル訪問を終え、キューバへ向かう。
- ◆ネール・インド首相、パリを訪問してドゴール大統領と会談。
- ◆バンダラナイケ夫人、セイロン自由党党首に就任。
- ◆トルコ外務省、アメリカ機の越境飛行を許さずと声明。

5月9日

- ◆フルシチョフ・ソ連首相、ソ連領空侵犯機への基地提供国に警告。
- ◆許政韓国大統領代理、北送問題でアメリカを非難。
- ◆周恩来首相、カンボジア訪問を終え、北ヴェトナムへ出発。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、キューバ訪問。
- ◆カーン・パキスタン工業相、日本との紡機買い付け交渉打ち切りを発表。
- ◆ナセル・アラブ連合大統領、第1回アラブ連合国民議会を7月22日招

集すると発表。

- ◆ハンガリー経済代表団、カイロ到着。
- ◆トルコ国民議会、アメリカ・トルコ双務軍事協定を批准。

5月10日

- ◆アジア地域の「国連人権セミナー」東京で開く。
- ◆周恩来中国首相、北ヴェトナム訪問。
- ◆新華社通信によれば、中国共産党中央委員会は4月22日、各省・市・自治区の党委員会に対し、漢字にローマ字つづりのルビをふって文字を覚えさせる方法を普及させるよう指示した。

- ◆周恩来首相、ホー・チミン北ヴェトナム大統領を訪問。

- ◆タイ投資委員会のタウイ・ブンヤケトン委員長、フランクフルトで、タイは外国投資を歓迎すると表明。

- ◆日本・マラヤ両国、通商協定に調印。

- ◆マジヤリ・ヨルダン首相、経済開発10カ年計画を準備中と表明。

- ◆マラヤ連邦上院、憲法改正令を採択。

- ◆ソ連・カンボジア両国、カンボジアに対するソ連の追加援助議定書に調印。

5月11日

- ◆韓国民議院の憲法改正委員会、改正案を本会議に提出。

- ◆周恩来中国首相、北ヴェトナムを訪問してファン・バンドン首相、ホー・チミン大統領らと会談。

- ◆日比友好通商航海条約交渉のラウレル・フィリピン代表、「日本側は日本人のフィリピン永住権要求を取り下げた」と発表。

- ◆インドネシア陸軍、スマトラおよび北部セレベスで反政府軍と衝突。

- ◆西ドイツのフィッツ・ザディアン会社、タイへ7億マルクを借款のかたちで投資することを決定。

- ◆イエーメン政府、中国へ留学生派遣。

- ◆カイロに米穀取引所新設。

5月12日

- ◆韓国政府、対日輸入制限撤廃を発表。
- ◆韓国警察当局、秘密警察を解体。
- ◆中国科学院学部委員会第3回会議開く。
- ◆アデバ駐日フィリピン大使、日本はフィリピン砂糖輸入量増加を約した、と述べた。
- ◆タイのタナット・コーマン外相、アメリカの対印米穀援助に強硬抗議。
- ◆ラオス総選挙の結果、CDIN（国家利益防衛委員会）絶対多数を獲得。
- ◆インドネシア政府、南部スマトラ移住開発計画発表。この計画の経費の一部は日本の賠償支払いによる。
- ◆インド共産党全国委員会終わる。
- ◆サウジアラビア・スウェーデン両国、相互の外交使節の大使昇格を決定。

5月13日

- ◆韓国自由党、同党所属国会議員の総辞任を決定。
- ◆韓国の反保守系新党の設立を発表。
- ◆香港株式取引所、取り引き額の3日間連続新記録を更新。
- ◆アブバカール駐マラヤ・フィリピン大使は、SEAFET（東南アジア友好経済協定）は将来共同市場結成に進むだろうと述べ、さらにSEAFET結成は60年末、ガルシア・フィリピン大統領のマラヤ訪問前に行なわれるだろうと述べた。
- ◆コーマン・タイ外相、タイ米の対印輸出交渉失敗のため辞表を提出。
- ◆マラヤ政府、マラヤにゴム取引所設立のため委員会を設置。
- ◆インドネシアのジョクジャカルタ、スラバヤで、オランダの西イリアンの増兵に反対するデモ起こる。
- ◆駐インドネシア中国大使館、江蘇中国領事の不法軟禁でインドネシア外務省に抗議。
- ◆インドネシア軍司令部、ヤミ取り引き全面禁止を発表。
- ◆イラク人民法廷、モスル陰謀参加者に死刑を判決。
- ◆北スマトラ油田に調査団派遣を決定、20日出発の予定。

5月14日

- ◆中国・ビルマ両国、国境協定および不可侵条約批准書を交換。
- ◆国府当局、外人旅行者および台湾訪問の華商について為替レート改定。
- ◆ビルマのカレン族暴徒、タイに侵入。
- ◆ラオスの親米極右派のCDIN（国家利益防衛委員会）議員ら、社会民衆党を結成。
- ◆スカルノ・インドネシア大統領、キューバ訪問を終わりプエルトリコに向かう。
- ◆インド準備銀行、4月のブレティンで、1959年度外国民間投資の活発化を発表。
- ◆レバノンのカラミ内閣総辞職し、選挙管理内閣発足。
- ◆ソ連、CENTO（中央条約機構）空軍演習で、イラン、トルコ、パキスタンに抗議。

5月15日

- ◆中国・イラク両国、文化協定調印。
- ◆全インドネシア海運協会、アメリカに船隻20隻を発注。

5月16日

- ◆東西首脳会談決裂。
- ◆キューバを訪問中のスカルノ・インドネシア大統領、カストロ首相と共同声明発表。
- ◆ラングーンに東ビルマ銀行設立。
- ◆ビルマ経済視察団イタリア訪問。
- ◆ガット第16回総会、ジュネーヴで開催。
- ◆14日からのCENTO空軍演習終わる。

5月17日

- ◆ネール・インド首相、アラブ連合を訪問、ナセル大統領と会談の予定。
- ◆ビルマのウ・ヌー首相、記者会見で、「ビルマ政府は、外国商品輸入はビルマ商社の手で行なわるべきであるとの提案を原則的に受け入れた」と述べた。
- ◆アラブ連合のアリ・サブリー副首相ブラジル訪問。

◆ソ連経済代表団、カイロ訪問。

5月18日

- ◆朝鮮民主党政の康委員長、南北間の自由旅行を提案。
- ◆南ヴェトナムの新革新グループ「自由進歩ブロック」、政党登録を申請。
- ◆ラオスのクー・アブハイ選挙管理内閣、サバン・パッタナ国王に辞表提出。
- ◆シアスーク前カンボジア国王、カンボジアの基本政策についての国民投票の6月5日に施行を提案。
- ◆イギリスのモンゴメリ元帥、中共訪問。
- ◆IMF（国際通貨基金）、アラブ連合に750万ドル借付供与。
- ◆米下院本会議、後進国向け投資促進法案を可決。

5月19日

- ◆ルソン島西部の米軍基地で、米将校団襲撃さる。
- ◆インドネシア外務省、東カリマンタンおよび北スマトラ駐在の2中国領事に退去を要求。
- ◆スバンドリオ・インドネシア外相、シロン米閣務次官に対オランダ紛争で、アメリカの援助を要請。
- ◆セイロンのスリランカ自由、共産、平等社会の3党、7月20日施行予定の総選挙につき、共同斗争協定を結んだ。
- ◆カイロの公式発表によると、6月ベイルートで開催予定のアラブ連盟代表者会議は、無期延期された。
- ◆大蔵省、丸善石油と東洋綿花のシンガポール進出計画に内認可。
- ◆タナット・コーマン・タイ外相、アメリカの対インド食糧輸出に抗議。
- ◆タイ紡績業者、東洋紡の工場建設に反対を表明。

5月20日

- ◆蒋介石氏、国府総統に就任。
- ◆韓国自由党再建を決定。
- ◆北ヴェトナム政府、近くバグダッドに通商代表部設置を決定。
- ◆DLF（米開発借款基金）、インドの

電力会社に770万ドルの借入を承認。

◆ソ連、U2機墜落問題で、日本に安保条約による米軍基地提供に警告。

◆ラオス愛国党機関誌ラオ・ハクサトによると、フォンサリ州駐留の王国軍1個中隊はゲリラ側に寝返った。

◆キサンサバ（全インド農民組合）第17回年次大会、急進的な土地改革実施を要求し、全インド農民に土地改革のための闘争をよびかける決議を採択して閉幕。

◆ナセル・アラブ連合大統領とネール・インド首相、首脳会談失敗後の世界情勢における中小国の責任重大化を強調する共同声明を発表。

5月21日

◆中国政府当局、米機の領空侵入に97回目の抗議。

◆京城地方検察庁、崔前内相ら4人を起訴。

◆フィリピンのマリキナ・ダムに関する調査委員会は、「日本側設計は安全を欠くため建設着工を延期せよ」との報告書を発表。

◆米輸出入銀行、インドネシアに220万ドル借入供与。

◆米輸出入銀行、レバノンに310万ドルの借入供与。

◆日本の海外電力調査会、メコン川、ペルー、ミンダナオ島の電源開発基礎調査他61年度事業計画を発表。

5月22日

◆ヨルダン政府、上下両院の議席をふやす新選挙法を承認。

◆トルコのメンデレス内閣、トルコ全大学の閉鎖を命令。

5月23日

◆U2型機事件で国連安保理開く。

◆国連スズ会議開く。

◆中国・朝鮮両国、国境河川協定に調印。

◆朝鮮全国平和会議、平壤で開く。

◆ラオスの愛国党党主スファミン殿下脱走。

◆インドネシア共産党創立40周年記念集会、ジャカルタで開く。

◆パキスタン食糧農業省当局、同国の食糧事情好転を発表。

◆西パキスタン政府、今後5年間に

全国の運輸網整備を計画。

◆タイ経済視察団来日。

◆ナセル・アラブ連合大統領、全新聞の政党（国民連合）への移管および全バス路線の国有化を決定。

5月24日

◆A・A連帯評議会、日本国民の新安保条約反対闘争支持を表明。

◆北京で開かれた中国の全国財政商業部門の技術革新、技術革命実演大会終わる。

◆周恩来中国首相、イラク貿易代表団と会談。

◆ガルシア・フィリピン大統領、マリキナ・ダム建設計画の入札を6月14日に延期するよう命令。

◆フランス経済技術援助使節団、南ヴェトナムに270万新フラン相当の援助を供与。

◆スカルノ・インドネシア大統領来日。

◆インドのマドラス州の繊維労働者、賃上げのための1日ストを開始。

◆パキスタン政府、綿糸84品目の値下げを発表。

◆ビルマ政府、予備隊を正規警察軍に吸収し警察力を強化したと発表。

◆萩原国連日本代表、対後進国投資を特別基金理事会に要請。

5月25日

◆SEATO 軍事顧問会議、ワシントンで開く。

◆OECD（経済協力開発機構）設立計画会議終わる。

◆中国・イラク両国、貿易支払協定に調印。

◆中国外交部、米の領海侵犯に100回目の警告。

◆中国エヴェレスト登山隊、北側からの登頂に成功。

◆韓国で自由党議員の辞職要求のデモ起こる。

◆南ヴェトナム軍、西部ジャングルの共産ゲリラ掃討を発表。

◆南ヴェトナム政府当局、サイゴンの共産活動手入力でインテリ多数の逮捕を発表。

◆南ヴェトナムのバンメトウト・ニンホア間の高速道路開通。

◆ラオス全土軍事警戒体制しかる。

◆ブノンペンからの新聞報道によれば、カンボジア軍事法廷は反政府陰謀参加者21人に死刑を判決。

◆インドネシア情報省当局、デモ、集会を引き続き禁止するとの声明を発表。

◆インドネシア政府、民間企業助成措置として、民間開発銀行を新設。

◆インドネシア外務省、華商送還を妨害した中国領事2人の追放を発表。

◆アユブ・カーン・パキスタン大統領保安法の有効期間1年延長を発表。

◆アフガニスタンのキシルカラの河港建設計画に対するソ連の援助協定、カブールで調印。

◆セイロンのスリランカ自由党、7月20日の総選挙で同党が政権を獲得した場合には、シリマボ・バンダラナイケ亡人を首相に指名すると発表。

5月26日

◆中国の全国人民代表大会常務委員会、中国・ネパール平和友好条約を批准。

◆中国と北朝鮮の地方交流に関する議定書に調印。

◆韓国政府、李承晩政権の高官61名を逮捕。

◆在日韓国居留民団、柳元大使の亡命阻止を決議。

◆インドネシアから3万人の華僑が中国に帰国。

◆ソ連、対イラク借入の1億8000ルーブル増額に同意。

◆イスラエル・アラブ連合両国戦闘機、国境で交戦。

◆アデン紙の報道によると、バドル・イエーメン皇太子、ナセル・アラブ連合大統領にエジプト軍派遣を要請。

◆ソ連通商代表団、シリア地区を訪問。

◆北スマトラ石油開発協力株式会社創立。

◆日立製作所、インドのダス・モーター社と合弁でニューデリーに「ダス・日立」設立を発表。

◆日本の紡績各社、インドネシア中央貿易公団と綿糸4万コウリの輸出契約締結。